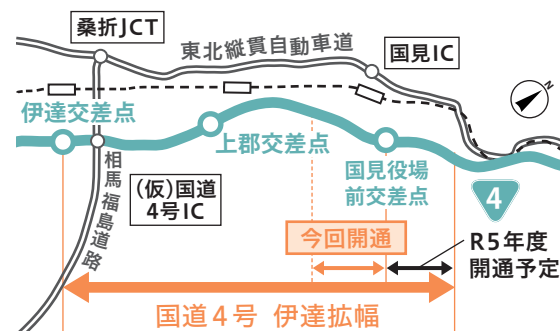




町内の国道4号線4車線化 より快適な交通環境へ

国道4号線伊達拡幅工事

国道4号線（桑折町～国見町大字藤田間）が3月27日に開通。
着工より約30年、多くの地元住民が待望の開通を喜びました。
事故防止や混雑解消はもちろん、
地域経済の活性化にも期待が寄せられています。



約30年間の拡幅工事を終えて、国道4号線4車線開通の時を迎えた桑折町。桑折町北半田から国見町方面を望む

着工から30年 待望の4車線化

福島河川国道事務所が進めていた「国道4号線伊達拡幅工事」の町内区間が完了し、3月27日から利用が開始されました。今回4車線化されたのは、桑折町大字北半田（勸喜寺入口交差点）から国見町大字藤田（国見町役場前交差点）までの区間。昭和56年に着工した本工事は、平成7年に大字上郡地内、平成23年に大字北半田地内の整備が完了。今回の区間をもって、桑折町内の国道4号線全長4,611mが、全て4車線として開通しました。

円滑な交通環境 4車線化への期待

本工事の完了により、円滑な交通環境が期待されています。従来の2車線区間では、混雑時の最

低時速が20km以下になるなど、交通混雑が発生していました。4車線になることで、走行速度の向上が期待されるほか、東北縦貫自動車道の通行止めなどの交通障害時にも混雑を解消し、安定的な通行が確保されます。東北道通行止め時の国道4号通行時間は、従来と比べて、約28分短縮できると推測されています。

混雑解消や事故防止はもちろん、地域経済活性化も展望されます。本道路に接する（仮称）相馬福島道路（国道4号インターチェンジ・桑折ジャンクション区間）もいよいよ今夏に開通。町内へのアクセス性がさらに向上し、迅速かつ安定した人・モノの流れが図られます。県北地域の新たな流通拠点として、期待が高まる桑折町。各方面で道路整備による効果が望まれています。